



冬の大三角を見よう！
月のある日はスマホで月撮影も！



星空観察会のご案内

本日は国民宿舎小豆島をご利用いただき、まことにありがとうございます。

当館では、本館3階屋上において、午後??時??分から午後??時??分頃まで、移動用としては大型の天体望遠鏡を使った星空観察会を開催します。

冬は風が強い日が多いですが、そのぶん空が澄み切って、条件のいい日にはすばらしくきれいな星空を見ることができます。

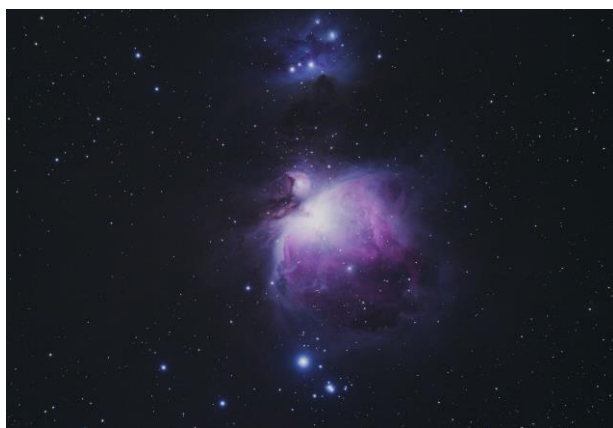
冬の星空は1等星が多くきらびやかで、有名なオリオン大星雲をはじめ、ぎょしゃ座からオリオン座、ふたご座付近の散開星団など、数多くの見ものがあります。また、宵の明星・金星も、日に日に高度を上げ、夕方の西空に煌々と輝いています。

月が出ている夜は月もご覧いただけますが、双眼装置を使って両目で見る月のクレーターや山脈は大迫力で眼前に迫ってきます。上弦の月(半月)から満月の間は、スマホ限定とさせていただきますが、クレーターもはっきり写る写真を撮るサービスも行っていますし、運が良ければ流れ星も見られるかも？大勢の方のご参加をお待ちしております。

ご覧いただく予定の天体

二重星

アンドロメダ座のアルマクやオリオン座のリゲルなどが見ごろです。アルマクはオレンジとブルーの色の対比がきれいで、リゲルは主星の強烈な光の中に微かに輝く青白い伴星が見られます。ぜひご自身の目で確かめてください。



星雲・星団

星雲にはガスが星の光によって照らされている散光星雲、星が爆発した後の姿である惑星状星雲があり、星団にはまばらな星の集まりである散開星団と、数万個以上の星がボール状に集まった球状星団があります。それぞれ大変淡い光であり、光を蓄積した天体写真とは比べるべくもありませんが、数千光年(1光年は約10兆キロ)から遠いものは数千万光年先にある天体を直接肉眼で見ることにまた別の趣があります。

冬は鳥が翼を広げたような姿のオリオン大星雲をはじめ、視野内の星の数なら全天一のペルセウス二重星団、神秘的な光芒のアンドロメダ大銀河、それぞれ個性的なぎょしゃ座の三つの散開星団など見どころが多数あり、それぞれ宇宙の奥深さを感じさせてくれます。小豆島の星空をぜひお持ち帰りください。